

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア
マンスリー・レポート



ブラジル



南アフリカ



メキシコ



オーストラリア



トルコ



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは自国通貨安政策を受けて下落～
 ブラジルでは個人消費関連の経済指標に持ち直しの兆候がみられましたが、鉱工業生産(前年比)等の製造業関連指標が悪化するなど景気減速が続きました。政策金利は9.75%となっています。ブラジル・レアルは3月の中国の輸入総額の減少、政府の自国通貨安政策を受けて軟調となっています。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは利下げ観測、通貨安政策などから上値の重い展開か～
 景気については先行きの景況感を示す製造業PMI(購買担当者指数)が景気判断の分かれ目となる50を僅かながらも3カ月連続で上回るなど減速傾向に歯止めが掛かりつつあるようにみえます。また、3月の自動車生産、輸出が前月比で増加したこともあり、今後の継続的な回復が期待されます。政策金利についてはインフレ率が同ターゲット内に収斂していることから追加利下げ観測が強まっています。ブラジル・レアルは、政府要人の発言から今後も通貨高抑制策が採られると考えられること、中国の経済成長率の鈍化観測、さらには利下げ観測もあり上値の重い展開が予想されます。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは軟調な原油価格を受けて下落～
 メキシコでは小売売上、消費者信頼感指数など個人消費関連に加え、製造業関連の経済指標も堅調さを維持しています。また、好調な米国経済を背景に同国における就業者からの送金額の前年比での増加が続いていることもあり、景気は緩やかな拡大傾向にあります。政策金利は4.50%に据え置かれています。メキシコ・ペソは利下げ観測の浮上、米国雇用統計への失望などを受けて下落しました。

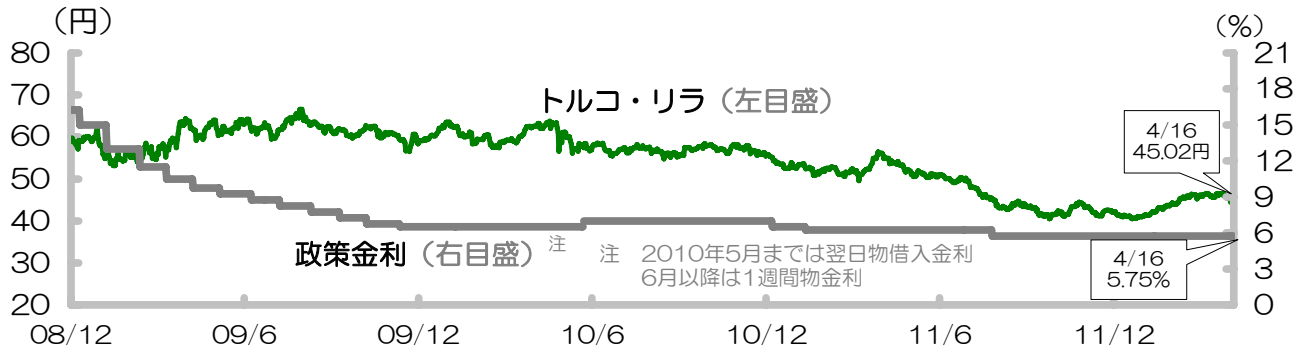
【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは上値の重い原油価格などからレンジ内での動きか～
 景気については、足元の経済指標には好調さがみられます。米国の雇用統計が予想ほど改善していなかったことや国内の消費者物価が予想を下回ったことから一部では利下げ観測も出始めていますが、景気が緩やかながらも拡大していることや消費者物価がインフレターゲット(3%)を上回っていることから早期の利下げはないとみえています。メキシコ・ペソは、上値の重い原油価格、利下げ観測など弱気材料がある一方で、米国の追加緩和期待も根強いことからレンジ内での動きになるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは景気鈍化、株安を受けて下落～

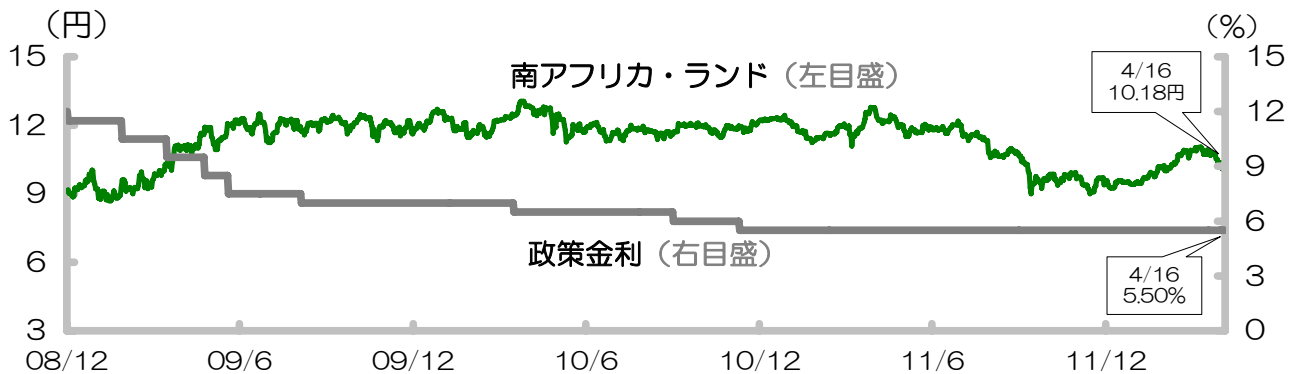
トルコでは2011年10～12月期の実質GDP成長率に鈍化がみられました。消費者物価についてはコア指数(前年比)が僅かに低下しました。中央銀行は政策金利を据え置きましたが、自国通貨安を警戒し資金供給を一時中止するなど引き締め姿勢もみせています。トルコ・リラは景気の鈍化、株安を受けて下げました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは景気動向、金融調節などからレンジ内での動きか～

景気については今後拡大ペースが鈍化するとみられます。中央銀行は、懸念されていた経常収支については景気の減速とともに改善し、高止まりを続ける物価についてはコア指数を中心に4～6月期には鈍化するとの見解を示しています。またリスク要因としてはエネルギー価格の高止まりを挙げています。政策金利は据え置かれるとみられますが、自国通貨安、債務懸念の残る欧州経済の同国景気への影響に配慮しながら貸出レート、資金供給面での調節を行うとみられます。トルコ・リラは景気減速、根強い懸念の残るユーロ圏の債務問題がある一方、中央銀行の金融調節もありレンジ内での動きになるとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは下落基調～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、自国通貨高対策への警戒感、消費者物価指数が市場予想を下回り政策金利が据え置かれるとの見方が強まったことに加え、スペイン国債の入札不調を受けた投資家のリスク回避姿勢から高金利通貨を売る動きが広がったこと、米国雇用統計を受けて円高が進んだことから、下落基調となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内で推移か～

景気については、製造業生産高が前月比でプラスを維持し、PMIが引き続き50を上回る水準をなど、緩やかな回復傾向が続いています。消費者物価指数は同国の目標インフレ率の上限(6%)を小幅に上回って推移していますが、足元では鈍化がみられることから、同国準備銀行は景気に配慮し政策金利を当面据え置くとみています。南アフリカ・ランドは、再燃する欧州債務問題の影響は懸念されますが、緩やかな景気回復傾向が続く中、現行の金利水準が続くとみられることから、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア

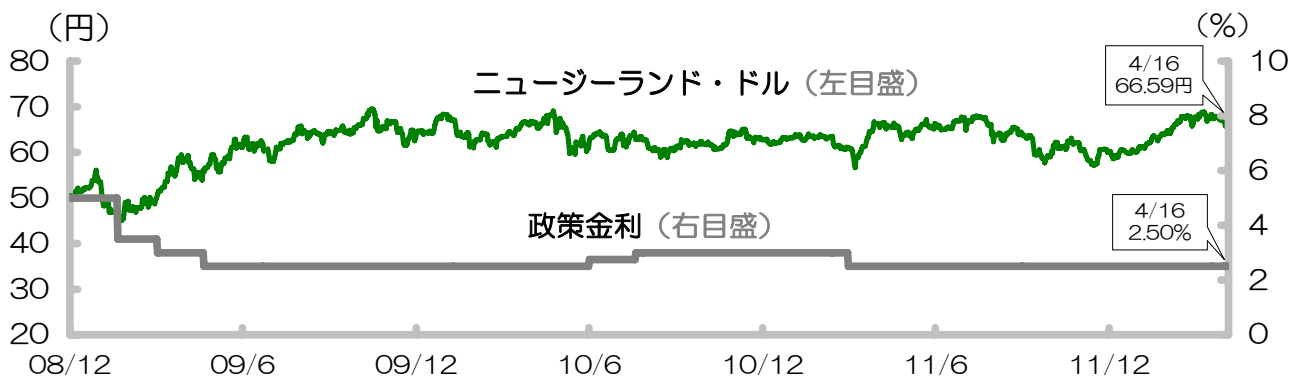


【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは一時上昇するも経済指標の悪化、利下げ観測から下落～
 オーストラリアでは雇用環境には改善がみられましたが、個人消費や住宅関連指標は悪化しています。政策金利は4.25%に据え置かれています。オーストラリア・ドルは予想よりも良好だった中国の経済指標を受けて上昇する場面もありましたが、自国および中国の景気減速懸念、利下げ観測等から下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは利下げ観測、景気鈍化などから上値の重い展開か～
 景気については、住宅指標や個人の景況感も下向きに転じており減速傾向がみられます。中国の輸入総額が減少していたことなど同国景気の先行き不透明感が強まっています。同国準備銀行の声明文では利下げの可能性が示唆されていたことから、当面は1～3月期の消費者物価指数の発表が注目されています。オーストラリア・ドルは国内の利下げ観測、国内外の景気鈍化に対する懸念などから上値の重い展開が予想されます。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは外部環境の悪化を受けて小幅に下落～
 ニュージーランドでは、10～12月期の実質GDPが+0.3%（前期比）となり、市場予想を下回りました。ただその他の経済指標については複数の企業景況感指数で景気の改善が示されるなど堅調なものもみられました。ニュージーランド・ドルは実質GDPに対する失望や外部環境の悪化がマイナス材料となりましたが、企業景況感指数の改善などに加えて、利下げ観測の根強いオーストラリア・ドルとの比較で選好されたこともあり、小幅の下落にとどまりました。

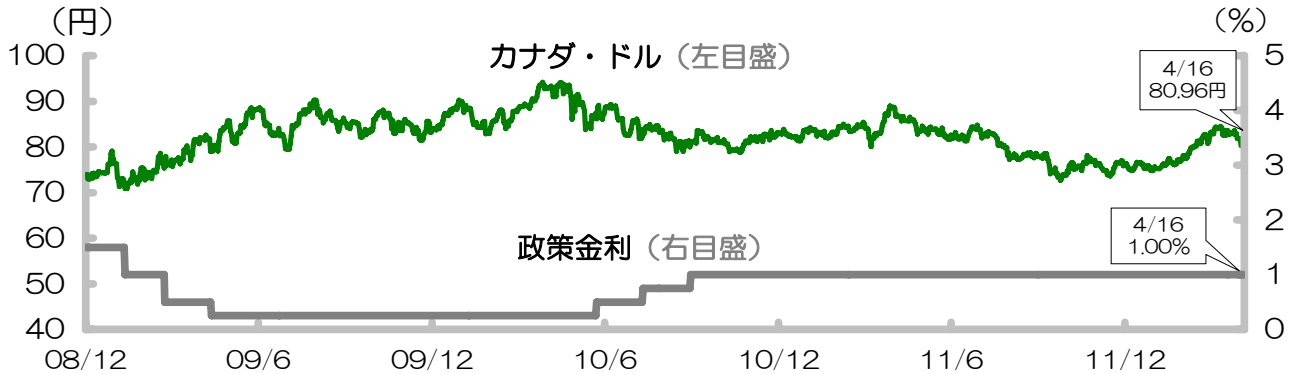
【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは底堅く推移か～
 景気については、大地震からの復興需要もあり緩やかに回復を続けるとみられます。製造業PMIはここ数カ月改善を示しており、製造業関連の拡大も期待されます。政策金利については、当面は過去最低水準の2.50%に据え置かれるとみっていますが、今後は景気回復を背景に徐々に利上げに向けた地ならしをはじめるとみえています。ニュージーランド・ドルは、中国の景気鈍化や欧州債務問題による投資家心理の悪化が懸念されますが、国内景気が堅調とみられることや今後の利下げが考えにくいことなどから、底堅く推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】 ~ カナダ・ドルは米国雇用統計への失望などを受けて下落 ~

カナダでは、1月期の実質GDPが前期比で+0.1%となり、回復ペースが鈍化しました。製造業や金融が堅調だった一方、原油・ガスといった鉱業が減速していました。2月の消費者物価指数は+2.6%（前年比）となりました。カナダ・ドルは、4月初旬にかけては米国の金融緩和期待や堅調な経済指標を受けて底堅く推移しましたが、その後は市場予想を下回る内容だった米国雇用統計への失望、スペインなどの欧州周辺国の国債利回りの上昇を受けた投資家心理の悪化などから、下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ カナダ・ドルは米国景気や原油価格を受けて底堅い動きか ~

景気については、堅調な米国景気を背景に回復を続けるとみられます。中央銀行の業況調査では、企業の売上増予想がみられるなど、企業活動の回復が示唆されました。また3月の雇用統計でもフルタイムを中心に大幅な雇用増がみられました。政策金利については、外部環境に不透明感が残ることもあり、当面は現行水準を維持するとみています。カナダ・ドルは、欧州債務問題による投資家心理の悪化が懸念されますが、堅調な米国景気や上値は重いものの依然として高値圏にある原油価格などから、底堅く推移するとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】 ~ ノルウェー・クローネは下落基調 ~

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれています。ノルウェー・クローネの対円での動きは3月末にかけてレンジ内で推移した後、スペイン国債の入札不振などを受けて欧州債務問題の再燃が警戒されて下げたユーロに連れ安したこと、米国の雇用統計の内容を受けて円が上昇したことから、下落基調となりました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ノルウェー・クローネはレンジ内で弱含みの展開か ~

景気については、PMIが上昇し、小売売上高が市場予想を上回るなど、依然として緩やかながらも着実な回復傾向にあります。中央銀行は、3月の利下げ以降のノルウェー・クローネがユーロに対してほぼレンジ内で推移していることから、当面は現行の政策金利を維持し景気および為替の動向を見守ると考えられます。ノルウェー・クローネは、景気が緩やかな回復を続けるとみられますが、今後の欧州景気の減速による輸出への影響が懸念されることに加え、欧州債務問題の再燃もあり、レンジ内で弱含むとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



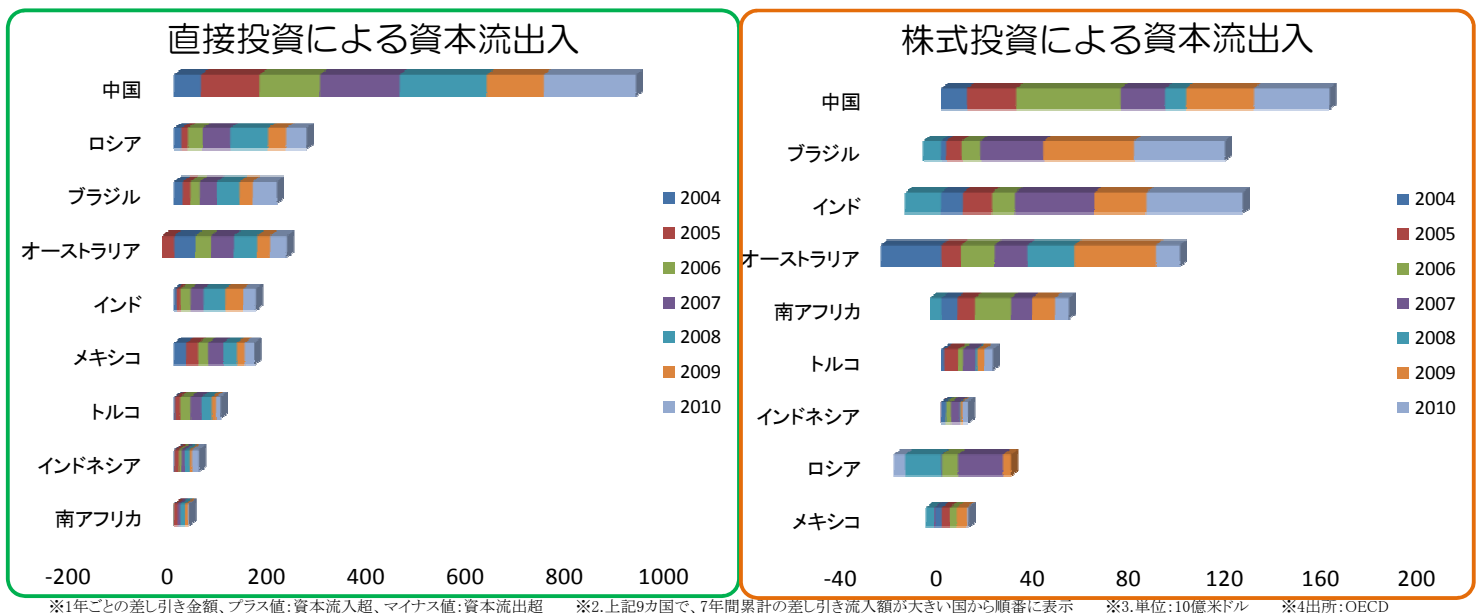
【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは外部環境の悪化の影響から軟調に推移 ～
 インドネシアでは、消費者物価指数(前年比)が+3.97%となりました。政策金利については、インフレ圧力が抑制されているとの判断から据え置かれましたが、将来予想される燃料価格引き上げによるインフレ圧力の高まりに対して警戒が示されました。4月からの実施が見込まれていた燃料補助金の削減は先送りされました。消費者信頼感指数は2カ月連続で鈍化しました。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題の再燃や中国の景気減速懸念、市場予想を下回る米国雇用統計など外部環境悪化の影響から軟調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは上値の重い展開か ～
 景気については、今後も個人消費や投資などの内需中心に堅調に推移していくとみられます。ただ輸入の増加や原油価格などを受けてインフレへの警戒感が高まっていることもあり、さらなる利下げは難しくなっています。インドネシア・ルピアは、中央銀行による本国通貨や国債の買い支え、国債格付の引き上げなどが期待される一方で、燃料価格の上昇によるインフレ圧力の増大、外部環境の悪化を受けた資本流出への懸念が残ることから、上値の重い展開になるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

今月のトピック

【海外から新興国・資源国への資本流出入(直接投資と株式投資)】



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。